

夏目金之助 東京朝日新聞記者、小説家

妻 キヨ 明一〇七生、廣島、士、中根重一長

男 純一 明四〇六生

君は東京府平民夏目直矩の弟にして、慶應三年正月五日を以て生れ、明治二十四年四月分家して一家を創立す。同十四年東京府尋常中學校に入り、兼て二松學舎に漢學を修め更に成立學舎に英語及び普通學を兼修し、後大學豫備門第一高等中學校を経て、同二十三年帝國大學文科大學に入り、英文學を専修し、同二十六年卒業、文學士の稱號を得、直に大學院に入る。此間高等師範學校英語教授を托せらる。同二十八年以來愛媛縣尋常中學校教諭、第五高等學校教授等に歴任し、後東京帝國大學文科大學講師たりしが、今は辭して新聞記者となる。其著「我輩は猫である」は浴陽の紙價をして貴かりし。家族は尙長女筆、明三二、五生、三女恒子(同三四一)

生(三女キヨ子同三六、一一生)四女キヨ子(同三八、二生)二男(六(同四一、一二生)五女ひな子(同四三、三生)あり(東京、年込、早稲田町七)

人事交興録 第三版
明治44年3月発行
掲載記事

な之部 (夏七)

六一五五